

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	国語		
科目の名称	国語総合		
使用教科書	新精選 国語総合 (明治書院)		
指導学年・学科	1年 全5科		
単位数	4単位		
科目の目標	国語の理解力、表現力を身につける。伝え合う力を高め、思考力を伸ばす。言語に対する関心を深める。		
担当教員名	松山 央(現代文) 高木 佳澄(古典)		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 近代以降のすぐれた文章を読んで、ものの見方、感じ方、思考力、批判力、表現力を広げたり深めたりすることができたか。 古典の言葉や文法を理解し、昔の人々の考え方や感情に興味関心を持つことができたか。 		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	<ul style="list-style-type: none"> 評論文を読み、論理的な文章に慣れるとともに、身近な事柄について考える姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 評論(1) 文脈に沿った言葉の意味を的確に理解させる。比較を通じて論を積み上げる展開の仕方を理解させる。自国の文化の特質を理解させる。 	6
	<ul style="list-style-type: none"> 小説に親しみ、構成や情景、登場人物の心情等を読みとる力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 小説(1) 登場人物の思考や心理の変化をたどり確かな想像力を養う。作品の主題を自分の問題として積極的にとらえる姿勢を養う。 	14
	<ul style="list-style-type: none"> 評論文を読み、現代的な問題に関心を持ち、要旨を的確に読みとる力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 評論(2) 身近な素材から人間の本質の考察へと至る論理展開の過程をたどり、筆者の主張を読み取る。グローバル化・テクノロジーなど現代的な問題について考える姿勢を養う。 	14
	<ul style="list-style-type: none"> 詩歌に親しみ、作品に込めた作者の感情を読みとり鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 詩歌 様々な角度から詩と言葉の関わりを学ばせる。作品の主題を考察する。 	5
	<ul style="list-style-type: none"> 古文に親しみ古文を読むための基礎知識を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 説話集 歴史的仮名遣いを理解し、繰り返し音読することにより古文に慣れる 	10
	<ul style="list-style-type: none"> 古典文法の基礎を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 古典文法の動詞の活用などを理解し、古文の現代語訳に役立てる 	11
	<ul style="list-style-type: none"> 漢文に親しみ、漢文を読むための基礎知識を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 返り点や再読文字について理解し、短い文を読み、書き下し文を作る 	8
	<ul style="list-style-type: none"> 故事・史話などや長い漢文を読解する基礎力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 故事成語 時代背景や登場人物の人間性、その心理を読み取り、漢文への興味関心を深める 	10

後期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評論文を読み、表現形式の特色を知るとともに、作者の主張を性格に読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評論（３） 論理の展開に即して筆者の主張を読み取らせる。指示語の内容や接続詞の働きを正しくとらえさせる。近代日本の問題点に対する作者の主張を読み取らせる。 	15
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説を読み、情景や心情等を通して主題を読みとる力をつけ、表現形式の特色を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説（２） 主人公の置かれている状況設定を細かく確認し、心情の変化を理解する。比喻表現に注目させながら小説の寓意性を読みとらせる。虚構のなかに自身の真実を発見していくさまを読解させる。 	15
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評論文を読み、段落相互の関係を的確につかんだうえで論理的に読みこなす力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評論（４） 段落相互の関係を理解し、要点や要旨を的確に把握する力を育てる。具体と抽象の関係を正確に理解させ、社会現象の本質を考察する力を育てる。 	9
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随筆・歌物語 歴史的背景や古典の世界の決まり事を理解し、古文の世界を楽しむ 	12
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国の歴史を読み、登場人物の心情や考え方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史伝 漢文の基本句法を知るとともに、史伝に描かれた登場人物の行動・考え方を通して人間の生き方について考えを深める。 	12
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日記、紀行文など様々なジャンルの古文を読み、古典の世界を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日記・紀行文 様々なジャンルの古文を読み、その文体や特徴について理解する 時代による作品の違いを知り、古文の世界への興味関心を深める 	15
計			156

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	地理歴史科		
科目の名称	世界史A		
使用教科書	明解 新世界史A 新訂版 帝国書院		
指導学年・学科	2 学年A M I G D科		
単 位 数	2 単位		
科目の目標	過去から現在に至る道筋を整理して、人間の権利と自由の尊重・異文化理解を図り ・ともに生きるに必要なことを考える		
担当教員名	隅田 秀典 竹生 深雪		
評価の観点	○歴史的事象への関心・意欲・態度 ○歴史的事象についての知識・理解		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	諸地域世界と交流圏	東アジア世界 南アジア世界 東南アジア世界 イスラム世界 ヨーロッパ世界 南北アメリカ	39
	一体化に向かう世界	大航海時代とヨーロッパ 市民革命	
後期	一体化に向かう世界	自由主義・ナショナリズムの進展 アジア諸国の動揺 東アジアの大変動	39
	現代の世界と日本	大衆社会の出現 第一次世界大戦 民族独立運動 経済恐慌と第二次世界大戦 東西冷戦	
計			78

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	地理歴史科		
科目の名称	日本史A		
使用教科書	高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来 (第一学習社)		
指導学年・学科	3年 全科		
単位数	2単位		
科目の目標	我が国の歴史の流れを、世界史的な視点もふまえながら理解させる。 さらに歴史的な思考力を培い、民主的で平和な国際社会の実現に貢献できる資質を養う。		
担当教員名	隅田秀典		
評価の観点	歴史的事象への興味・関心・意欲・態度 歴史的事象についての知識・理解		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	<ul style="list-style-type: none"> 日本のあゆみをふりかえる 近代日本の形成と19世紀の世界 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のあゆみをふりかえろう 国際環境の変化と幕藩体制の動揺 明治維新と近代国家の形成 	39
後期	<ul style="list-style-type: none"> 近代日本のあゆみと国際関係 第二次世界大戦後の日本と世界 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係の推移と近代産業の成立 政党政治の展開と大衆文化の形成 第二次世界大戦と日本 戦後の政治と社会 経済国家としての発展 現代の日本と世界 	39
計			78

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	公民科		
科目の名称	現代社会		
使用教科書	改訂版 高等学校現代社会（数研出版）		
指導学年・学科	1学年 A、M、I、G、D科		
単位数	2単位		
科目の目標	広い視野に立ち、現代社会の状況と人間のあり方について基礎的な事項を理解し、さらに、自ら人間として如何にあるべきか考える力を養う。また、民主的で平和な国際社会の実現のために主体的に生きる現代人としての資質を養う。		
担当教員名	竹生 深雪		
評価の観点	○社会的事象への関心・意欲・態度 ○社会的事象についての知識・理解		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	序論 第2部 第1編 現代の社会生活と青年 第2編 現代の経済 社会と経済活動の 在り方	「現代社会」で学ぶこと 第1章 現代社会の特質と社会生活の変化 第2章 現代社会における青年の課題 第3章 先人の生き方考え方 第1章 科学技術の発達と現代の企業 第2章 市場機構と政府の役割 第3章 日本経済の進展と課題	39
後期	第3編 現代社会の民主政治と民主社会の倫理 第4編 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	第1章 民主政治の基本原則 第2章 日本国憲法と基本的人権 第3章 日本の政治機構と民主政治 第1章 国際社会の動向と日本の役割 第2章 国際経済の動向と国際協力	39
計			78

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	数学		
科目の名称	数学 I		
使用教科書	改訂版 新編 数学 I (数研出版)		
指導学年・学科	1年 A・M・I・G・D科		
単位数	3単位		
科目の目標	方程式と不等式、二次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。		
担当教員名	数学科 矢萩章夫 吉田典文		
評価の観点	①基礎的な概念・定義を理解し、正確な計算ができるか ②各定理・公式・法則を的確に応用できるか ③数学的な事象を処理する過程において、論理的な思考ができるか ④様々な場面において、数学的な思考を的確に応用できるか		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	第1章 数と式	第1節 式の計算 ①整式の加法と減法 ②整式の乗法 ③因数分解 第2節 実数 ④実数 ⑤根号を含む式の計算 第3節 方程式と不等式 ⑥不等式の性質 ⑦1次不等式 ⑧絶対値を含む方程式・不等式	12 7 14
	第2章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ ①関数とグラフ ②2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 ③2次関数の最大・最小 ④2次関数の決定	14 10
	第2章 2次関数	第3節 2次方程式と2次不等式 ⑤2次方程式 ⑥2次関数のグラフとx軸の位置関係 ⑦2次不等式	18
	第3章 図形と計量	第1節 三角比 ①三角比 ②三角比の相互関係 ③三角比の拡張 第2節 三角形への応用 ④正弦定理 ⑤余弦定理 ⑥正弦定理と余弦定理の応用 ⑦三角形の面積 ⑧空間図形への応用	15 17
後期	第1章 数と式	第4節 集合と命題 ①集合 ②命題と条件 ③命題とその逆・対偶・裏 ④命題と証明	10
計			117

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	理科		
科目の名称	科学と人間生活		
使用教科書	科学と人間生活 (実教出版)		
指導学年・学科	1 学年 A, M, I, G, D 科		
単位数	2 単位		
科目の目標	自然科学全般の事項について総括的に学習する。二学年にて学習する物理基礎の分野を考慮し、人間と自然との関わりに重点をおき、科学の歴史を紐解きながら、科学の基本を学ぶ。		
担当教員名	真鍋 穂文		
評価の観点	① 基本的な概念や原理・法則についての理解が深まっていること。 ・ 毎時間の授業に意欲的に参加していること。 ・ 実験などにも意欲的に取り組み、科学的な思考ができること。 ・ ノート・提出物など努力を欠かさないこと。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配当時間
前期	① 科学と技術の発展 ② 光や熱の科学 ③ 物質の科学	① 科学と再現性 ② 生物学の歴史、科学技術の歴史 ③ 光の性質、電磁波としての特性 ④ 光と技術の発展 ⑤ 温度、熱、エネルギー ⑥ 物質のなりたち ⑦ セラミックス ⑧ 金属の製錬、特性 ⑨ プラスチック ⑩ 食品としての糖類、油脂、蛋白質 ⑪ 衣服を構成する繊維、天然および合成繊維	39
後期	④ 生命の科学 ④ 宇宙や地球の科学 ⑥ これからの科学と人間生活	⑫ 光合成 ⑬ 動物の行動と光、眼の構造と働き ⑭ いろいろな微生物 ⑮ 微生物と医薬品 ⑯ 身近な天体と太陽系における地球 ⑰ 身近な視線環境と自然災害 ⑱ 太陽光の有効な利用 ⑲ リサイクル技術 ⑳ 原子核崩壊と放射線	39
計			78

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	理科		
科目の名称	物理 I		
使用教科書	三省堂 高等学校 物理 I		
指導学年・学科	2 学年 A・M・I・G・D 科		
単位数	3 単位		
科目の目標	実験・観察を通して、基礎的な物理概念の理解を深め、科学的に探求することへの興味・関心・態度を高める。また、基礎的な問題演習を通して、工芸・工業分野への利用能力を高める。		
担当教員名	神庭 郁		
評価の観点	① 基本的な実験をもとに、結果を分析し、法則等を発見することができる。 ・ 物理の用語の意味を正確に理解する。 ・ 科学的な探求心と態度を身につけることができる。 ・ 実際の場面で、科学的に考えて問題の発見と解決を図ることができる。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	1 運動と力	◎ 運動とその記述・・・運動の記述方法 ◎ 速度と加速度・・・各種運動の理解と記述 ◎ 力と運動・・・力の性質と運動への影響 ◎ 運動の法則・・・ニュートンの運動の法則	5 6
	2 エネルギー	◎ 仕事・・・仕事の定義と計算 ◎ エネルギー・・・エネルギーの概念 ◎ 力学的エネルギー・・・力学的エネルギーと保存法則 ◎ 温度と熱・・・温度・熱の本質とエネルギーとの関係	
後期	3 波動	◎ 波の現象・・・波特有の現象の発見と伝搬方法の理解 ◎ 重ね合わせ・・・重ね合わせの原理と作図法 ◎ 干渉と回折・・・身近にある干渉回折の理解と原理 ◎ 反射と屈折・・・反射・屈折の原理と現象 ◎ 音波・・・音の性質と現象 ◎ 光波・・・光の波動面での性質と現象	6 1
	4 電気	◎ 静電気とその性質・・・身近な現象からみた静電気 ◎ 電流とその性質・・・電流の本質と様々な性質 ◎ 交流・・・交流発電の原理と送電 ◎ 電波・・・電波現象の原理	
計			117

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)		
指導学年・学科	1 学年 男子		
単位数	1 単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	二階堂		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	陸上	①ハードル走 短距離走・基本動作 ②ハードル走 ハードリング ③ハードル走 アプローチ ④ハードル走 反復練習 ⑤ハードル走 タイムトライアルと評価	7
	水泳	①水慣れ ②基本動作 パート別練習 ③クロールと平泳ぎ ④背泳ぎ	10
後期	持久走サッカー	①10分間走 サッカーの基本動作 (ドリブル等) ②10分間走 サッカーの基本動作 (リフティング等) ③10分間走 サッカーの基本動作 (インサイドキック等) ④10分間走 サッカーの基本動作 (ボールコントロール) ⑤10分間走 サッカーの基本動作 (ヘディング等)	6
	サッカー	①基本動作 リフティング ②基本動作 パス ③基本動作 ドリブル ④関係動作 パスゲーム ⑤関係動作 パスアンドシュート ⑥セットプレー 簡易ゲーム ⑦簡易ゲームと評価	8
計			39

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012(大修館)		
指導学年・学科	1学年 男子		
単位数	1単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	二階堂		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	柔道	①基本動作 受け身 ②基本動作 投げ技→受け身 ③基本動作 受け身+寝技 ④基本動作 受け身+寝技と評価	7
	水泳	①水慣れ ②基本動作 パート別練習 ③クロールと平泳ぎ ④背泳ぎ ⑤5分間走	10
後期	柔道	①投げ技かかり練習 ②投げ技かかり練習+寝技自由練習 ③投げ技自由練習+寝技自由練習 ④簡易試合 ⑤簡易試合と評価	14
計			39

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)		
指導学年・学科	1学年 女子		
単位数	1単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	谷津		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	陸上	①ハードル走 短距離走・基本動作 ②ハードル走 ハードリング ③ハードル走 反復練習 ④ハードル走 タイムトライアルと評価	8
後期	バレーボール	①オーバーパス ②アンダーパス ③パスゲーム ④サーブ ⑤サーブレシーブ ⑥アタック練習 (その1) ⑦簡易ゲーム ⑧ゲーム+総合評価	12
	縄跳び	①技の練習・確認 ②連続跳び ③技の検定 ④技の連続跳び ⑤連続跳びの検定 ⑥検定及び評価	11
計			39

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)		
指導学年・学科	1学年 女子		
単位数	1単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	佐々木		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	水泳	①水慣れ ②基本動作パート別練習 ③クロール ④平泳ぎ ⑤持続泳(5分間) ⑥25メートル タイムトライアル(クロール、平泳ぎ)	8
後期	器械体操	①マット運動 前転系 ② 後転系 ③ 倒立系 ④ 連続技の練習 ⑤ 課題別練習 ⑥ 発表会と評価	12
	バスケットボール	①基本動作パス ②基本動作ドリブル ③基本動作シュート ④簡易ゲーム ⑤ゲームと評価	11
計			39

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)		
指導学年・学科	2学年 男子		
単位数	1単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	二階堂		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	ハンドボール	①パスアンドラン ②パスアンドランアンドドリブル ③速攻 遅攻 簡易ゲーム ④簡易ゲーム ⑤ゲーム ⑥ゲームと評価	6
	水泳	①水慣れ (1年次の復習) ②クロール 平泳ぎ 背泳ぎ ③バタフライ ④持続泳	12
後期	器械体操	①マット 基本技 ②マット 応用技 ③マット 反復練習 ④反復練習 (自由) ⑤発表会と評価	6
	バレーボール	①パス1 ②パス2 パスゲーム ③サーブ レシーブ ④パスゲーム ⑤アタック練習 ⑥サーブ練習 ⑦ゲームと評価	7
計			39

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)		
指導学年・学科	2学年 男子		
単位数	1単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	谷津		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	柔道	①基本動作 受け身 ②基本動作 投げ技→受け身 ③基本動作 受け身+寝技 ④基本動作 受け身+寝技と評価	6
	水泳	①基本動作 パート別練習 ②バタフライ ③クロール 平泳ぎ 計測 ④持続泳 計測	1 2
後期	バスケットボール	①基本動作パス 簡易ゲーム ②基本動作ドリブル 簡易ゲーム ③基本動作シュート 簡易ゲーム ④応用動作 2対2 ⑤応用動作 3対3 ⑥3 on 3 ⑦ゲーム (リーグ戦) と評価	1 3
計			3 9

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)		
指導学年・学科	2学年 女子		
単位数	1単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	山崎		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	水泳	①水慣れ ②基本動作パート別練習 ③クロール ④平泳ぎ ⑤持続泳(5分間) ⑥50メートル タイムトライアル(クロール、平泳ぎ)	8
後期	持久走	①800メートル走 ペース走 ②800メートル走 トライアルと評価 ③1000メートル走 ペース走 ④1000メートル走 トライアルと評価	11
	ダンス	①ダンスの基本動作(ストレッチ) ②モチーフ作りの練習 ③モチーフ作りの練習・発表 ④作品づくり ⑤ビデオ撮影・リハーサル ⑥発表・鑑賞・評価 ⑦鑑賞・評価	12
計			39

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)		
指導学年・学科	2学年 女子		
単位数	1単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	佐々木		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	水泳	①水慣れ ②基本動作パート別練習 ③クロール ④平泳ぎ ⑤持続泳(5分間) ⑥25メートル タイムトライアル(クロール、平泳ぎ)	8
後期	器械体操	①平均台の基本動作 ②あがり方、降り方 ③歩く・ステップ ④ジャンプ・ターン・バランス ⑤技の連続 ⑥課題別練習 ⑦発表と評価	11
	バスケットボール	①基本動作 復習 ②簡易ゲーム ③応用動作 3対2 ④3 on 3 ⑤ディフェンス ⑥ゲーム ⑦ゲームと評価	12
計			39

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	保健体育		
科目の名称	体育		
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)		
指導学年・学科	3 学年男子 前半は男女混合		
単位数	1 単位		
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。		
担当教員名	佐々木 山崎 二階堂 谷津		
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施	3
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり	5
	水泳	①基本泳法 ②持続泳 (10分間) ③3泳法メドレー タイムトライアル	10
	ホッケー	①基本動作 ②簡易ゲーム ③簡易ゲームと評価	9
後期	サッカー	①基本動作パス・リフティング ②基本動作ドリブル ③連携動作パスゲーム ④連携動作パス アンド ドリブル シュート ⑤簡易ゲーム ⑥ゲームと評価	5
	バスケットボール	①基本動作 パス+シュート ②基本動作 ドリブルシュート ③集団技能 オフェンス+簡易ゲーム ④集団技能 ディフェンス+簡易ゲーム ⑤ゲーム ⑥ゲームと評価	5
計			32

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	保健体育					
科目の名称	体育					
使用教科書	現代保健体育・スポーツガイダンス2012 (大修館)					
指導学年・学科	3 学年男女					
単 位 数	2 単位					
科目の目標	各種の運動の合理的な実践を通して、 ・運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。 ・公正、協力、責任等の態度を育てる。 ・継続的に運動ができる能力と態度を育てる。					
担当教員名	佐々木 山崎 二階堂 谷津					
評価の観点	①技能 学習活動における運動技能の進歩の度合い ②知識 各スポーツ種目の一般的知識、ルール、練習法、審判法、作戦・戦術等に対する理解 ③態度 積極的に活動する態度、自己を向上させようと努力する態度、仲間との協調・協力、諸活動の持続性					
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容		配当時間		
前期	オリエンテーション スポーツテスト	オリエンテーションの実施 スポーツテストの実施		3		
	体育祭種目の練習	①ルール理解 ②実施方法 ③各種目の練習・体づくり		5		
	水泳	①基本泳法 ②バタフライ泳法 ③3泳法の練習 ④ターン		7		
	ホッケー	①連携プレー ②ゲーム ③ゲームと評価		7		
後期	①ボール慣れ ラケット慣れ ②グランドストローク 1 ③グランドストローク 2 ④グランドストローク 3 ⑤グランドストローク 4 ⑥ボレー 1 ⑦ボレー 2 ⑧スマッシュ ⑨サーブ 1 ⑩サーブ 2 ⑪リターン ⑫複合練習 ⑬ダブルス ⑭簡易ゲーム ⑮ゲームと評価	テニス	①ラケット慣れ 基本的な構え方 ②ストローク ③杯クリアー ④ドロップ ⑤スマッシュ ⑥ドライブ ⑦ヘアピン ⑧サーブ ⑨フットワーク ⑩1対1の簡易ゲーム ⑪ダブルスの動き ⑫簡易ゲーム ⑬ゲーム 1 ⑭ゲーム 1 ⑮ゲーム 3 と評価	卓球	①ラケット慣れ ボールつき ②サーブと基本 ③レシーブの基本 ④フォアハンドストローク ⑤バックハンドストローク ⑥カット ⑦カットサーブとレシーブ ⑧スマッシュ ⑨ドライブ ⑩サイドスピン ⑪シングル簡易ゲーム ⑫シングル簡易ゲーム ⑬ダブルス簡易ゲーム ⑭ダブルス簡易ゲーム ⑮総合評価	40
	計			62		

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画

教科の名称	保健体育		
科目の名称	保健		
使用教科書	現代保健体育（大修館）		
指導学年・学科	1 学年		
単 位 数	1 単位		
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
担当教員名	佐々木 山崎 宗村		
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解ができたかどうか。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していけるような知識を習得したかどうか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	現代社会と健康	オリエンテーション 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 さまざまな保健活動や対策 生活習慣と日常の生活行動 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 医薬品と健康 感染症とその予防 エイズとその予防 健康にかかわる意思決定・行動選択 意思決定・行動選択に必要なもの	19
後期	現代社会と健康	欲求と適応機制 心身相関とストレス 自己実現 交通事故の現状と要因 交通事故における運転者の資質と責任 安全な交通社会づくり 応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法 心配蘇生法の実習 日常的な応急手当	20
計			39

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	保健体育		
科目の名称	保健		
使用教科書	現代保健体育（大修館）		
指導学年・学科	2 学年		
単 位 数	1 単位		
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
担当教員名	二階堂 谷津		
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解ができたかどうか。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していけるような知識を習得したかどうか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	生涯を通じる健康	オリエンテーション 思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康 高齢者のための社会的とりくみ 保健制度ろ保健サービスの活用 医療制度と医療費	1 9
後期	社会生活と健康	大気汚染と健康 水質汚濁と健康 土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生活動のしくみと働き 食品と環境の保健と私たち 働くことと健康 労働災害・職業病と健康 健康的な職業生活	2 0
計			3 9

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	外国語（英語）		
科目の名称	英語 I（必修）		
使用教科書	「CROWN English Series 1 New Edition」（三省堂）		
指導学年・学科	1 学年・全科		
単位数	3 単位		
科目の目標	① 4 技能に関わる基礎的な学力を充実させる。②進路実現に対応できる英語の学力を養成する。③予習、課題を中心とした家庭学習の習慣を定着させ、自ら学習に取り組むことができる自立した学習者を育成する。④異文化理解を深める。		
担当教員名	奥出 昌子		
評価の観点	英文の読解力、文法、語法、作文に関わる力、語彙力、正しく発音する力を観点とする。各定期考査の得点及び平常の授業態度、提出物等努力点を基に評価をする。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	CROWN English Series 1 New Edition Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4	<ul style="list-style-type: none"> まとまった内容の英文の読解。単語の発音・語彙の理解 英語表現の習得。 文法事項 中学校で既習の基本的な語順の復習・確認 ① 5 文型②不定詞③動名詞④関係代名詞⑤過去完了 ⑥名詞を補足説明する分詞⑦原形不定詞 ⑧S+seems to do～⑨It seems (that)～ 復習用課題による家庭学習を定着させ、授業内容の理解を深める。 内容は、異文化理解、エッセイ、世界遺産など。 	59
後期	CROWN English Series 1 New Edition Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8	<ul style="list-style-type: none"> まとまった内容の英文の読解。単語の発音・語彙の理解、英語表現の習得。 文法事項 ①関係副詞②受動態の完了形③It ~...の構文④分詞構文 ⑤時制の一致⑥S+V+O(if [whether]節・how節) ⑦withを使った付帯状況⑧no matter +疑問詞 ⑨be to+動詞の原形⑩仮定法過去完了 復習用課題に加え、予習課題による家庭学習を定着させ、授業内容のいっそうの理解を深める。 進路実現を意識した学習意欲を向上させるための動機付けとなる資格試験問題などに取り組む。 内容は、環境保護問題、文化、科学など。 	58
計			117

平成 2 4 年 度 年 間 指 導 計 画			
教科の名称	家庭科		
科目の名称	家庭基礎		
使用教科書	「新家庭基礎」(教育図書)		
指導学年・学科	2 学年 (A・M・I・G・D)		
単位数	2 単位		
科目の目標	変化の激しい不安定化する社会で自分らしい生き方を見つけ充実した生活を創っていく力を身に付ける。		
担当教員名	品川 ひろみ		
評価の観点	授業態度：生活課題を自ら考え、判断し解決しようとしているか。 被服、調理実習：知識と技術を理解し身に付けられているか。 定期考査点数、提出物の内容(意欲的に知識を得ようとしているか)		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配当時間
前期	「家庭生活」 ・人の一生と家族について ・家族家庭に関する法律 ・暮らしの中の消費	「自分らしい生き方」を考え家族、社会とのかかわりのかなで影響をうけてきたことを理解し、家族、社会に関心を深める。 「家族」に関する法律の内容を理解させる。 消費生活に関する知識を習得させ、消費生活の課題を認識させ、責任を持って行動できるようにする。	4. 5. 6 月 2 4 時間 7 月 6 時間
	・高齢者の福祉と高齢社会	高齢者を取り巻く問題点(介護、年金等)について考え自らの将来に役立てられるようにする。	9 月 9 時間
後期	「衣生活」 ・衣服の手入れと材料	衣類の機能や着装、材料などの基礎的な知識と技術を習得させ健康で快適な衣生活を営む事が出来るようにする。	10. 11 月 1 6 時間
	「食生活」 ・栄養と食品	栄養に関心をもちその食品について知る。	12 月 4 時間
	・食生活と献立と調理 ・食生活と環境	自分の食生活を見直し、健康によい食習慣を身に付ける事に関心を持たせる。 世界の食事情を踏まえ、食の意識を生活に生かす。	12 月 4 時間 2. 3 月 1 4 時間
計			7 8

平成24年度 教科「奉仕」年間授業計画 (2学年・1単位)

アートクラフト科 (担当者 藤原・垣内・西川)

奉 仕 年 間 指 導 計 画			
科 目 の 目 標	①「奉仕」が設定された意義について理解を深める。 ②すでに実施されている奉仕やボランティア活動について理解を深める。 ③体験的な活動を通じて、共に生きる姿勢や意義を学ぶ。		
評 価 の 観 点	①社会に役立つ喜びと意義を理解する。 ②社会に役立つ知識と能力を高める。 ③社会の様々な課題について理解する。 ④社会のいろいろな人と共に生きる姿勢を身につける。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	ガイダンス	奉仕の内容と意義、講演会	8
	社会のいろいろな課題	社会の課題について、テキスト、グループワークで学ぶ	
	活動に役立つ考え方	実践に役立つ方法や姿勢について、テキスト・グループワークで学ぶ	
	体験先の理解	体験学習の意義や、実習の内容について理解を深める	
	体験学習	各連携先で、体験実習を行う	24
	体験学習振り返り	体験学習についての振り返り	1
後 期	体験学習振り返り	体験学習の振り返りについて、グループ活動を行う	6
	発表会準備	体験学習の振り返りをもとにした発表会の準備	
	発表会	グループごとに奉仕体験学習報告書にまとめ、成果の発表を行う	
計			39

マシクラフト科（担当者 鈴木・樽味・竹生）

奉 仕 年 間 指 導 計 画			
科 目 の 目 標	奉仕に関する基礎的・基本的な知識を習得させるとともに、社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に学ぶことを通して将来、社会に貢献できる資質を育成する		
評 価 の 観 点	体験活動に積極的に取り組んでいたか 発表の仕方 出欠状況		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
事前指導	体験前事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奉仕活動とは（講演） ・ 本業を通じた社会貢献とは（講演） ・ ボランティア体験者（講演） ・ 体験活動について 	8
体験活動	体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児を対象とした保育園の奉仕活動 ・ 学校説明会のアシスタント ・ 小中学生向け体験実習（本校）のアシスタント ・ 福祉作業所の奉仕活動 	24
事後指導	学習の振り返り 発表会の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価とまとめ記入（準教科書） ・ 体験活動発表 	7
計			39

インテリア科（担当者 青柳・斎藤・田中）

奉 仕 年 間 指 導 計 画			
科 目 の 目 標	インテリアに関する社会的な諸問題に目を向け、体験的な活動に参加し、相互に協力することで、専門的な教科と社会との関連や、その分野における社会貢献についての可能性について学習する。		
評 価 の 観 点	調べ学習などで、社会における諸問題を取り上げ、解決に向けて協力し、工夫することができたか。体験学習において、自分の役割を認識し、積極的な取り組みが行えたか。発表会を行うために十分な準備ができたか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
事前指導	体験前事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・「生徒自ら行動するボランティア活動」 ・「持続可能な社会を構築するために」 ・体験学習の計画書づくり ・活動内容の最終確認 	8
体験活動	体験学習（予定）	A 美術館等での工作ワークショップ A 保育園等での体験活動 A 保育園等での工作ワークショップ B ものづくりインストラクター （ものづくりフェア） Bものづくりインストラクター （体験木工教室） ※体験学習のAは2日間プログラム、Bは1日プログラム。 A、Bそれぞれ1つずつ選択する。	24
事後指導	学習の振り返り 発表会の準備	夏の体験学習実施発表会 「体験学習を通じて学んだこと」振り返り作業 グループワーク「発表会に向けて」 グループワーク発表会準備 1年生に向けて奉仕発表会	7
計			39

グラフィックアート科（担当者 岸・小林・谷津）

奉 仕 年 間 指 導 計 画			
科 目 の 目 標	自己を見つめ、社会の一員としての自覚を持つ 将来に対して、自己実現できることの探求を行う 夢や希望の持てる社会の形成者を目指す		
評 価 の 観 点	積極性をもって行動しているか 問題意識を持って取り組んでいるか 自己評価と反省が述べられるか		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
事前指導	体験前事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・本業を通じた社会貢献とは ・ボランティアとは ・NPO法人とは ・企業の社会貢献とは ・メディアリテラシーとは ・グループ活動の意義とは ・体験活動の計画 ・体験先の理解 ・準備活動のまとめ 	8
体験活動	体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各体験場所での活動 ・様々な人とのコミュニケーション ・毎日の評価と反省 	24
事後指導	学習の振り返り 発表会の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・活動成果のまとめ ・自己評価 ・グループでのまとめ ・クラスでの発表 ・次の学年への連絡 	7
計			39

デザイン科（担当者 降矢・森中・二階堂）

奉 仕 年 間 指 導 計 画			
科 目 の 目 標	福祉や造形教育分野での奉仕体験活動を通し、社会に役立つ喜びと意義を知る。 社会の中のさまざまな課題を体験の中で理解し、自らが貢献していく意欲を高める。 さまざまな立場の人々とのふれあいを通して、支えあいともに生きる姿勢を学ぶ。		
評 価 の 観 点	体験の内容について事前に学習し、適切な事前準備を行うことができたか。 体験活動において、準備した内容をもとに積極的に活動ができたか。 プレゼンテーションシートや発表会で、社会貢献の喜びや意義などの学習成果を共有することができたか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
事前指導	体験前事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 本業を通じた社会貢献とは ・ 社会の問題は誰が解決するか ・ 共に生きる社会の一員になろう ・ 体験学習の説明、希望調査 ・ 活動先の決定、保険について ・ 校外活動の注意事項 ・ 活動目標の設定、事前調査 ・ 計画書の作成（ワークシート） ・ 活動内容等の最終確認 	8
体験活動	体験学習（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・ いずみこどもプラザ ・ 小石川福祉作業所 ・ ものづくり体験講座インストラクター ・ 小・中学生向け体験講座インストラクター ・ 学校説明会のアシスタント 	24
事後指導	学習の振り返り 発表会の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動報告書の作成 ・ 発表準備、プレゼンテーションシートの作成 ・ 体験活動発表会 	7
計			39